

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

・ロシア、EU 等で下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

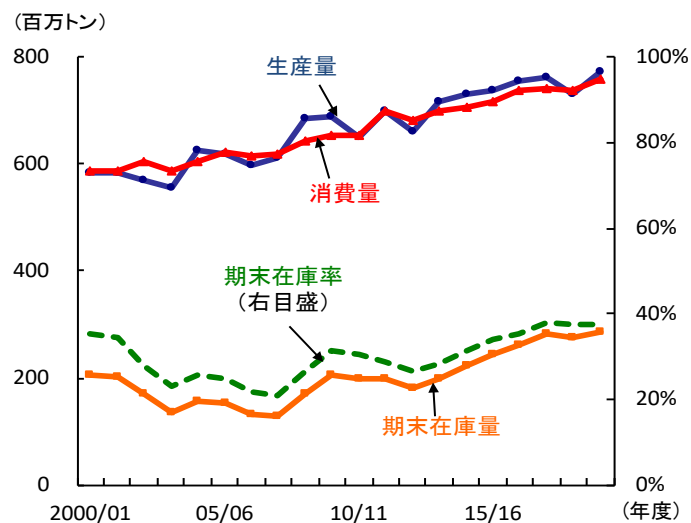
消費量 前年度比 前月比

・ロシアで下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・ロシア、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2019.7.11)をもとに農林水産省で作成。

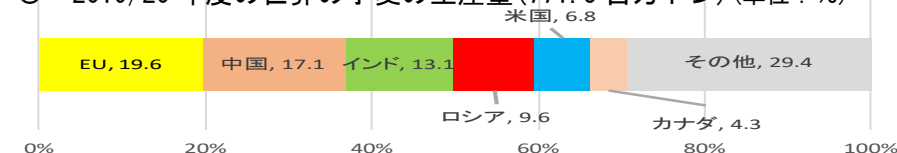
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	761.9	730.9	771.5	▲ 9.4	5.5
消費量	742.9	736.8	760.2	▲ 2.9	3.2
うち飼料用	146.6	140.1	151.2	▲ 1.4	7.9
輸出量	182.0	175.3	183.1	▲ 2.3	4.5
輸入量	179.8	173.9	178.9	▲ 1.1	2.9
期末在庫量	281.1	275.2	286.5	▲ 7.9	4.1
期末在庫率	37.8%	37.3%	37.7%	▲ 0.9	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」(11 July 2019)

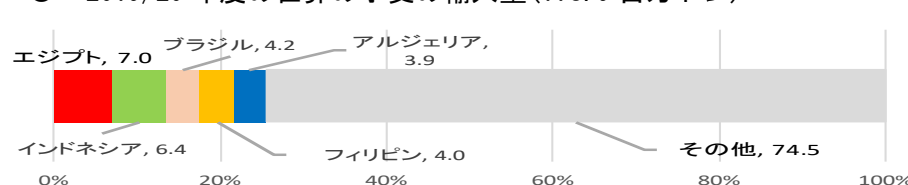
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量(771.5 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量(183.1 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量(178.9 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.7.22)によれば、冬小麦の収穫は、7月21日時点で収穫進捗率(主要生産18州)が69%と、前年度同期(79%)及び5年平均(79%)を下回っている。

また、春小麦の出穂は、同日時点で出穂進捗率(主要生産6州)は92%と、前年度同期(96%)及び5年平均(94%)を下回っている。作柄評価は、良からやや良が前週と変わらず76%で前年度同期の79%を下回っている(前週に比べ、良の割合は3ポイント上昇)。

2019/20年度の生産量は、前月予測から0.5百万トン上方修正され、52.3百万トンとなる見込み。そのうち、冬小麦は35.1百万トン(対前年度比9.0%増)、春小麦は17.2百万トン(対前年度比10.0%減)の見込み。

【需給動向】飼料用需要が、前月予測から0.3百万トン上方修正され、4.1百万トンとなる見込み。これは、カンザス州等の生産地で小麦の供給が潤沢で、小麦価格が他の飼料用穀物に比べ相対的に安いことによる需要の増加や、とうもろこしの成熟、収穫遅延懸念で、2019年6～8月にかけてとうもろこしからの代替需要が増加する見込みのため。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、ロシア、ウクライナ、豪州等の主要輸出国の生産量の下方修正に伴う輸出量の減少見込により、前月から1.4百万トン上方修正され、25.9百万トンとなる見込み。

小麦－米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

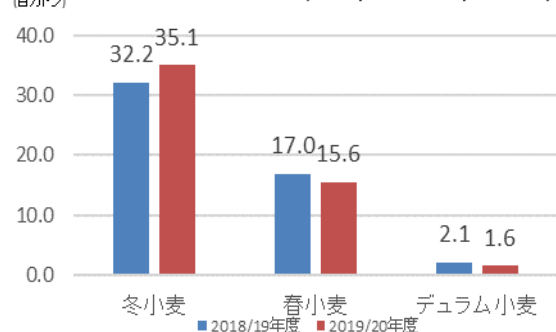
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	52.3	0.5	1.9
消費量	29.3	30.2	32.2	0.3	6.6
うち飼料用	1.3	2.5	4.1	0.3	65.2
輸 出 量	24.7	25.5	25.9	1.4	1.5
輸 入 量	4.3	3.7	3.8	-	3.8
期末在庫量	29.9	29.2	27.2	▲ 1.9	▲ 6.7
期末在庫率	55.5%	52.4%	46.9%	▲ 4.8	▲ 5.5

(参考)

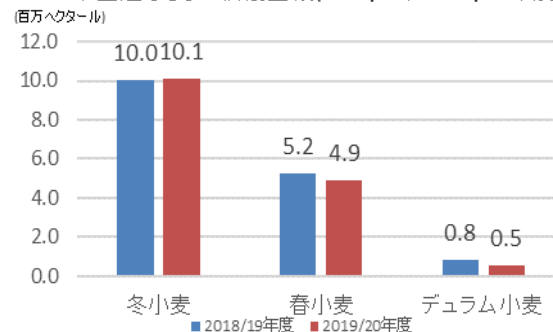
収穫面積(百万ha)	#REF!	15.20	15.80	▲ 0.23	3.9
単収(t/ha)	15.54	3.12	3.28	0.08	5.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)

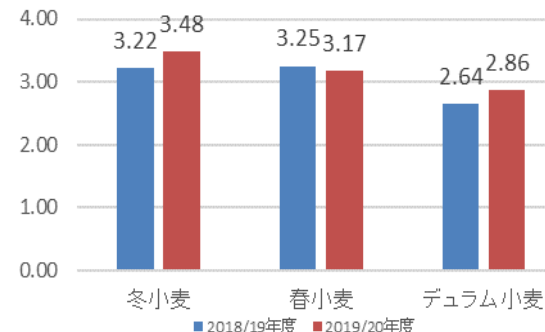
米国産小麦の生産量(2018/19、2019/20年度)



米国産小麦の収穫面積(2018/19、2019/20年度)



米国産小麦の単収(2018/19、2019/20年度)



資料: 米国農務省「Crop Production」(July 2019)をもとに農林水産省で加工

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から1.2百万トン下方修正され33.3百万トンとなったものの、前年度より4.7%増加する見込み。

主要生産地のアルバータ州では春小麦の75%、デュラム小麦の37.8%が良からやや良の作柄評価となっている。また、サスカチュワン州では、春小麦の63%、デュラム小麦の55%が良からやや良となっている。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)の7月報告によれば、小麦全体の生産量は、春小麦の収穫面積の減少から、前月予測から1.8百万トン下方修正され32.0百万トンの見込み。普通小麦は27.0百万トン、デュラム小麦は5.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は23.6百万トンとなる見込み。普通小麦は主要輸出国との競争激化から対前年度比2%減の18.9百万トン。デュラム小麦は世界の生産量の減少によるカナダへの需要増から、対前年度比4.4%増加の4.7百万トンの見込み。

< EU >

【生育・生産状況】USDAによれば、6月にヨーロッパ中央及び北部で、降雨不足と著しい高温で登熟期後半の小麦が影響を受けた。英国等では春から初夏にかけて降雨に恵まれたものの、6月は乾燥天候となり土壌水分不足となった。また、フランス、ドイツ、ポーランド等では最高気温が35℃を超え高温天候となった。この高温・乾燥天候で、小麦の分けつや穀粒形成に影響がおよび、フランス、ドイツ、リトアニア、ポーランド等のヨーロッパ大陸の西部、北部で単収が低下する見込み。

2019/20年度の実生産量は、6月の高温・乾燥の影響による単収の低下から、前月予測から2.5百万トン下方修正され151.3百万トンとなるものの、前年度を10.3%上回る見込で、おおよそ、EUの5年平均の実生産量(151.0百万トン)となる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から0.5百万トン上方修正され27.0百万トンとなる見込み。ロシアの競争力が生産量の下方修正に伴い低下し、EUの北アフリカ地域、サブサハラ地域、中東地域向けの輸出が拡大する見通し。

小麦—カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.0	31.8	33.3 (32.0)	▲ 1.2	4.7
消費量	9.4	9.0	9.3 (8.6)	▲ 0.2	3.3
うち飼料用	4.5	4.1	4.3 (3.8)	▲ 0.2	4.9
輸 出 量	22.0	24.5	24.0 (23.6)	-	▲ 2.0
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	5.9	4.7	5.1 (5.1)	▲ 1.1	9.6
期末在庫率	18.9%	13.9%	15.4% (15.8%)	▲ 3.2	1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	9.90	9.70 (10.15)	▲ 0.30	▲ 2.0
単収(t/ha)	3.34	3.21	3.43 (3.27)	▲ 0.02	6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 July 2019)

小麦—EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	137.2	151.3 (150.8)	▲ 2.5	10.3
消費量	130.4	123.1	128.0 (127.5)	-	4.0
うち飼料用	58.0	52.0	56.5 (53.6)	-	8.7
輸 出 量	23.3	24.0	27.0 (26.6)	0.5	12.5
輸 入 量	5.8	5.7	5.5 (5.1)	-	▲ 3.5
期末在庫量	14.0	9.8	11.6 (15.1)	▲ 2.8	18.3
期末在庫率	9.1%	6.7%	7.5% (9.8%)	▲ 1.8	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	25.70	26.45 (26.18)	-	2.9
単収(t/ha)	5.78	5.34	5.72 (5.8)	▲ 0.09	7.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(11 July 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(27 June 2019)

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、6月のロシア欧州部南部の高温と平年を下回る降水量による単収低下と冬枯れの再検証による収穫面積の減少から、前月予測から3.8百万トン下方修正され、74.2百万トンの見込み(参照 P1 ロシアの小麦の生育・輸出状況)。生産量の内訳は、冬小麦が55.0百万トン、春小麦が19.2百万トン。

ロシア気象センターによれば、6月現在、冬小麦は、ロシア欧州部の北西連邦管区、沿ボルガ連邦管区、南連邦管区等で乳熟期から黄熟期を迎えたが、南連邦管区等では降雨が少なく、土壌水分が不足している。春小麦はロシアアジア部のウラル連邦管区、シベリア連邦管区で莖立期から出穂期となっている。冬小麦は7月に入り収穫が開始され、7月12日時点の収穫進捗率は25.4%、春小麦は8月下旬に収穫が開始される見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、主要輸出地域であるロシア欧州部南部での高温による生産量の下方修正により、前月予測から2.5百万トン下方修正され34.5百万トンの見込み。例年、輸出される小麦の品質は、低タンパクであったが、本年は高温が続いたためタンパク含有量が改善された。

< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の前月予測からの変更はなく、前年度より0.4%増加の132.0百万トンの見込み。

中国中央気象台によれば、2019/20年度の冬小麦の収穫は7月に終了し、品質は良好。春小麦は、黒竜江省で出穂期から開花期、甘粛省、陝西省、河北省等では穂ばらみ期から乳熟期に入っている。

中国糧油情報センターによれば、2019/20年度の前月予測からの変更はなく、前年度より0.4%増加の132.0百万トンの見込み。中国糧油情報センターによれば、2019/20年度の前月予測からの変更はなく、前年度より0.4%増加の132.0百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が126.0百万トン、春小麦が7.0百万トン。冬小麦は、作付後の積算温度が例年より高く、降水も適宜であったため単収が上昇し、前月から1.0百万トン上方修正された。また、消費量は、一部地域で小麦とうもろこしの価格差が狭まり、飼料用途として小麦がとうもろこしを代替したため、123.5百万トンと前月予測から1.0百万トン上方修正された。

小麦－ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	85.2	71.7	74.2 (79.5)	▲ 3.8	3.5
消費量	43.0	40.5	40.5 (43.1)	▲ 1.0	-
うち飼料用	20.0	18.0	18.0 (19.6)	▲ 1.0	-
輸 出 量	41.4	36.0	34.5 (35.2)	▲ 2.5	▲ 4.2
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	-	-
期末在庫量	12.0	7.7	7.4 (11.7)	▲ 0.3	▲ 3.9
期末在庫率	14.3%	10.1%	9.9% (14.9%)	0.1	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.37	26.34	26.30 (27.30)	▲ 0.20	▲ 0.2
単収(t/ha)	3.11	2.72	2.82 (2.91)	▲ 0.12	3.7

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2019)

小麦－中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	131.4	132.0 (131.2)	-	0.4
消費量	121.0	125.0	128.0 (127.9)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.0)	-	5.0
輸 出 量	1.0	1.2	1.3 (1.2)	-	8.3
輸 入 量	4.0	3.2	3.5 (3.6)	-	9.4
期末在庫量	131.3	139.7	145.9 (127.2)	▲ 0.3	4.4
期末在庫率	107.6%	110.7%	112.8% (98.5%)	▲ 0.2	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	24.10 (24.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.48 (5.47)	-	1.1

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2019)

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度は、7月に入ってもクイーンズランド州南部は乾燥型の天候が続き、単収の見通しが悪化している。乾燥天候が続いていたニューサウスウェールズ州北部では7月上旬に降雨があったものの、追加降雨が必要。ウェスタンオーストラリア州は十分な土壌水分と温暖な気温に恵まれ小麦の生育は順調である。ビクトリア州、サウスオーストラリア州でも降雨が観測され、作柄は良好である。

2019/20年度の生産量は、前月予測から1.5百万トン下方修正され、21.0百万トンとなるものの、前年度より21.4%増加する見込み。7月予測では、単収が上昇したものの、作付け時の乾燥天候を反映し収穫面積が減少する見込み。

なお、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian crop report」(2019.6.12)によれば、2019/20年度の生産量は、前年度(17.3百万トン)より22.5%増加し21.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、生産量の下方修正のため、前月予測から1.0百万トン下方修正され12.5百万トンの見込み。一方、ABARES「Agricultural commodities」(2019.6.17)によれば、インドネシアの即席麺市場のような価格重視のアジア市場では相対的に安価な小麦を黒海諸国から小麦を輸入しているが、天候等の回復による生産量の増加で、価格が例年の水準に低下すれば、豪州はそのシェアを回復するとみている。

写真 順調に生育する小麦(ウェスタンオーストラリア州)

降水量は平年より下回っているが、適時な降雨に恵まれ、同州の小麦は、順調に生育している。



小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	17.3	21.0 (22.9)	▲ 1.5	21.4
消費量	7.5	9.2	8.5 (8.0)	▲ 0.5	▲ 7.6
うち飼料用	4.0	5.7	5.0 (4.4)	▲ 0.5	▲ 12.3
輸出量	13.9	9.0	12.5 (14.5)	▲ 1.0	38.9
輸入量	0.2	0.3	0.2 (0.2)	-	▲ 50.0
期末在庫量	5.5	4.9	5.1 (4.9)	0.1	3.1
期末在庫率	25.8%	27.0%	24.1% (22.0%)	2.1	▲ 2.9

(参考)
 収穫面積(百万ha)※ 10.92 10.16 11.00 (12.10) ▲ 1.00 8.3
 単収(t/ha) 1.92 1.70 1.91 (1.89) 0.03 12.4
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(11 July 2019)
 IGC 「Grain Market Report」(27 June 2019)

豪州等の小麦輸出価格(FOB価格)の推移



資料: 米国農務省「Grain:World Markets and Trade」(July 2019)をもとに農林水産省で加工

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・米国等で収穫面積の上方修正により、前月から上方修正された。

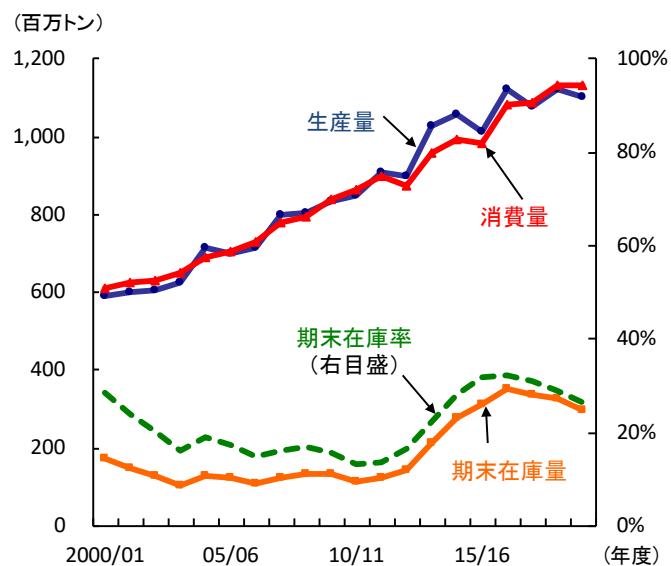
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国で飼料用需要の上方修正により、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ウクライナで生産量の上方修正による輸出量の上方修正により、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「P&S」(2019.7.11)をもとに農林水産省にて作成

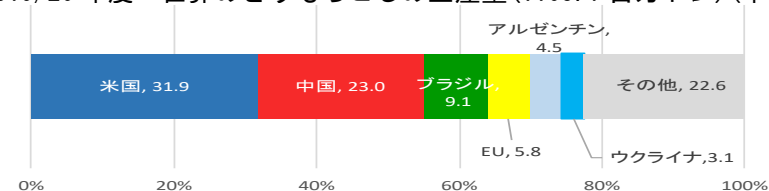
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

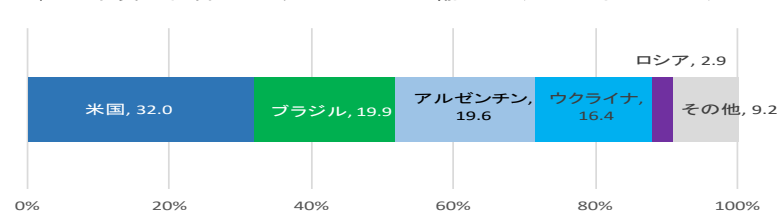
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,078.0	1,122.7	1,105.1	6.0	▲ 1.6
消費量	1,090.1	1,133.2	1,135.0	0.9	0.2
うち飼料用	673.0	698.9	696.5	0.2	▲ 0.3
輸出量	148.8	172.4	170.8	1.0	▲ 0.9
輸入量	149.9	163.8	167.8	0.4	2.4
期末在庫量	339.3	328.8	298.9	8.4	▲ 9.1
期末在庫率	31.1%	29.0%	26.3%	0.7	▲ 2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 July 2019)

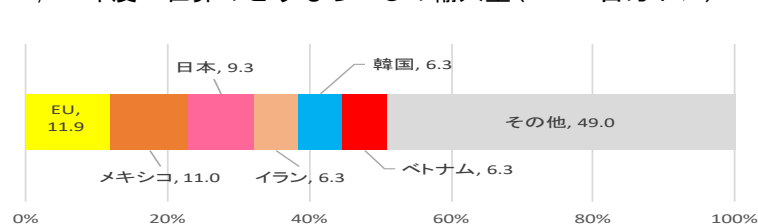
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量(1105.1 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量(170.8 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量(167.8 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】3月以降、6月まで断続的に続いた降雨により、作付け、生育に遅れが生じた。米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.7.22)によれば、7月21日時点のシルキング進捗率は35%と、過去5年平均(66%)より遅れている。生育は平年と比べ、全米平均で5日、特にコーンベルト東部では2週間程度遅れており、例年より遅い7月下旬から8月上旬に、作柄を左右する受粉期を迎えるとみられる。

USDAによれば、「作付面積調査」(2019.6.28)により、収穫面積は前月より上方修正されたため、生産量は前月予測より上方修正され、前年度より3.8%減の352.4百万トンの見込み。なお、同調査は、例年6月1～2週時点の調査を反映しており、それ以降については8月のレポートで修正されることとなっている。本年は作付けが6月末まで行われたことから、収穫面積が修正される可能性がある。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、供給増により前月予測より飼料用需要が上方修正されたものの、前年度より0.4%減の307.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量については、前年比2.4%増の54.6百万トンの見込み。なお、6月の輸出検証高(252万トン)の内訳は、我が国向けが最も多く(99万トン)、続いてメキシコ(89万トン)、コロンビア(22万トン)向け。価格については、降雨過多による作付け遅れにより、5月から6月中旬にかけて上昇したが、6月下旬以降、天候の回復見通しや6月28日付けの作付面積調査結果が市場予想を上回ったため横ばいで推移している。

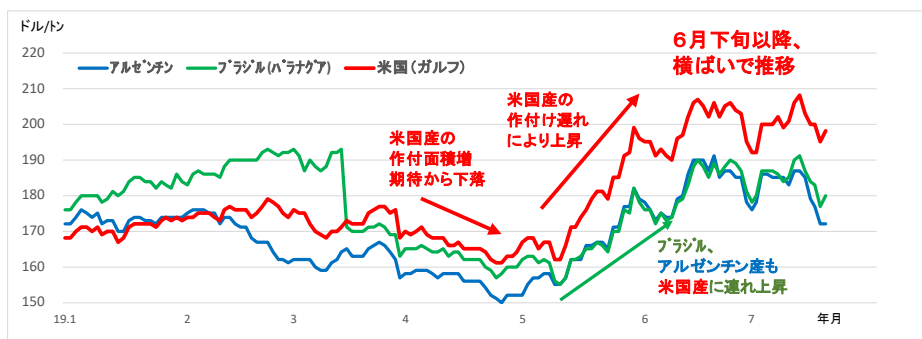
とうもろこし－米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	352.4	4.9	▲ 3.8
消費量	314.0	308.8	307.5	0.1	▲ 0.4
うち飼料用	134.7	134.0	131.5	0.6	▲ 1.9
エタノール用等	142.4	138.4	139.7	-	0.9
輸 出 量	61.9	53.3	54.6	-	2.4
輸 入 量	0.9	0.9	1.3	-	42.7
期末在庫量	54.4	59.5	51.1	8.5	▲ 14.1
期末在庫率	14.5%	16.4%	14.1%	2.3	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.48	33.08	33.83	0.48	2.3
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.42	-	▲ 5.9

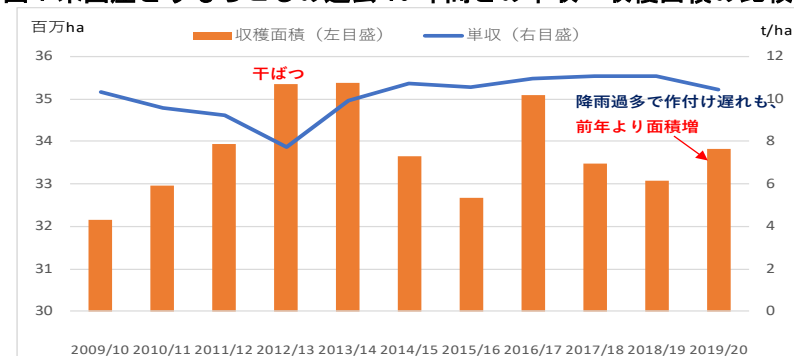
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

図: 米国産とうもろこしの過去10年間との単収・収穫面積の比較



資料: USDA 「PS&D」(2019.7)のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年10月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前年度並の101.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社（Conab）月例報告（2019.7.11）によれば、2018/19年度のとうもろこし（夏冬の合計）の生産量は、98.5百万トンと2017/18年度（80.7百万トン）より増加する見込み。うち、収穫済みの夏とうもろこしは、26.2百万トン（前年度比2.5%減）、収穫中の冬とうもろこしは、72.4百万トン（前年度比34.2%増）である。（P.16 大豆—ブラジルのクロープカレンダー参照）。

冬とうもろこしの収穫は、生産量の最も多い中西部のマトグロソ州で、7月19日現在、収穫率が86%、2位の南部のパラナ州で、7月15日現在、収穫率が58%と平年より早いペースで進展している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、近年の増産により、2018/19年度の輸出量は34.0百万トンに増加し、とうもろこし輸出国の世界第2位の座をアルゼンチンと争っている。（図参照）。

ブラジルの貿易統計によると、6月の輸出量は136.8万トンで、主な輸出先は、イラン、ベトナム及び我が国となっている。1～6月までの輸出量累計は、928.1万トンで前年同期比79%増となっている。

とうもろこし—ブラジル

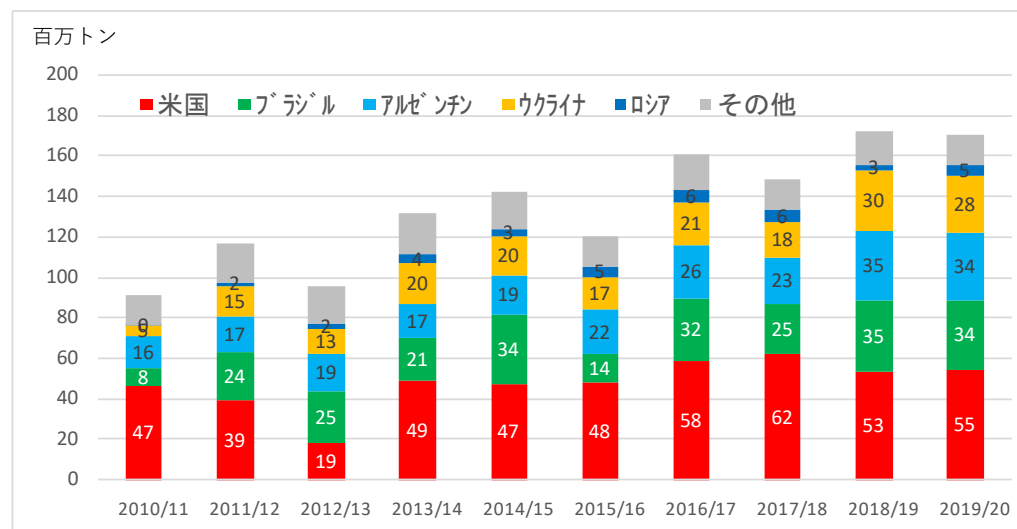
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割）

（単位：百万トン）

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	82.0	101.0	101.0 (99.3)	-	-
消費量	64.5	66.5	69.5 (67.4)	-	4.5
うち飼料用	55.0	56.0	58.0 (53.5)	-	3.6
輸 出 量	25.1	35.0	34.0 (33.0)	-	▲ 2.9
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.3)	-	-
期末在庫量	7.3	7.8	6.3 (6.7)	▲ 1.0	▲ 19.2
期末在庫率	8.2%	7.7%	6.1% (6.7%)	▲ 0.0	▲ 1.6
（参考）					
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10 (17.60)	-	3.4
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58 (5.64)	-	▲ 3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
IGC「Grain Market Report」(27 June 2019)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
ブラジル、アルゼンチンが2位争い



資料：USDA「PS&D」(2019.7)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年9月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前月予測から変更なく、前年度を2.0%下回る50.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所の週報(2019.7.25)によれば、2018/19年度の収穫が最盛期を迎えており、進捗率は68.6%である。生産量は48.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】

2019/20年度の輸出量は、前年度より4.3%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国立統計研究所によれば、本年1～5月の輸出量は1,411万トンで、最近の主要輸出先は、エジプト、ベトナム、韓国である。

< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の前月予測から変更なく、前年度より1.3%減の254.0百万トンの見込み。政府によるとうもろこしの在庫の積み上がりの解消政策として、大豆への作付け転換が奨励されていることにより作付面積が減少したことが要因とみられる。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は279.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】6月以降、とうもろこしの害虫のツマジロクサヨトウの被害が報告され、7月16日時点で21省(57万ヘクタール)まで被害面積が拡大した。なお、害虫の被害の懸念から国内価格が上昇したため、政府は臨時備蓄を放出して価格上昇を緩和するとともに、6月26日の農業農村部のプレスによれば、25種類の防除薬を指定し、5億円の資金で関係地方に防除対策を指導している。今のところ、在庫が潤沢なため、国内需給への大きな影響はないとみられる。

中国の貿易統計によれば、2019年1～6月の輸入量は311万トンで、そのうち98.6%がウクライナ産である。

とうもろこし—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.0	51.0	50.0 (55.3)	-	▲ 2.0
消費量	12.4	13.8	15.0 (23.0)	-	8.7
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (18.0)	-	6.2
輸 出 量	22.5	35.0	33.5 (32.5)	-	▲ 4.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	4.6	6.1 (8.3)	1.0	33.0
期末在庫率	6.8%	9.4%	12.6% (14.9%)	2.1%	3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	6.00	6.10 (7.40)	-	1.7
単収(t/ha)	6.15	8.50	8.20 (7.47)	-	▲ 3.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)、
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2019)

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	254.0 (257.3)	-	▲ 1.3
消費量	263.0	275.0	279.0 (287.8)	-	1.5
うち飼料用	187.0	192.0	190.0 (181.0)	-	▲ 1.0
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	3.5	5.0	7.0 (5.1)	-	40.0
期末在庫量	222.5	209.8	191.8 (175.3)	-	▲ 8.6
期末在庫率	84.6%	76.3%	68.7% (60.9%)	-	▲ 7.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.00 (41.80)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.20 (6.16)	-	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)、
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・米国で収穫面積が上方修正され、前月から上方修正された。

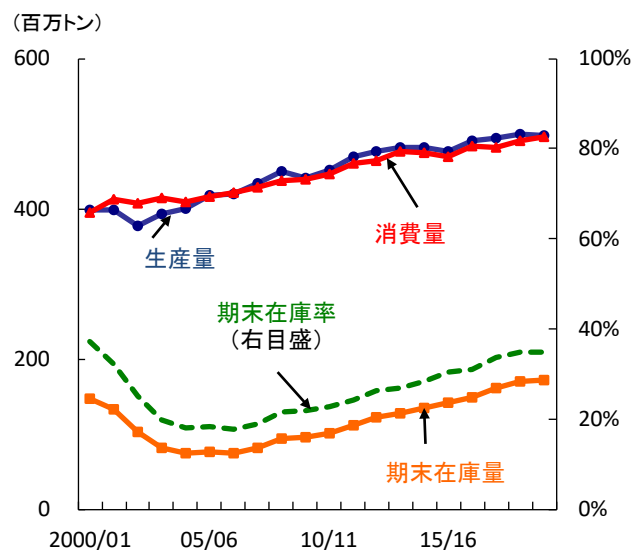
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、フィリピン等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・タイで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2019.7.11)をもとに農林水産省にて作成

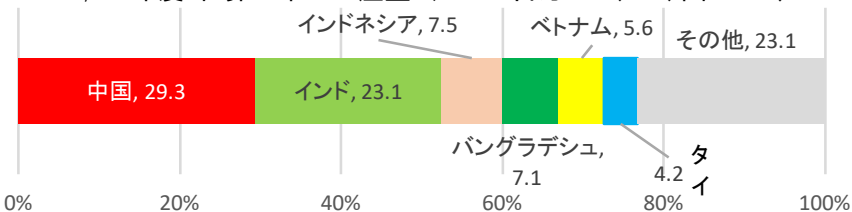
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

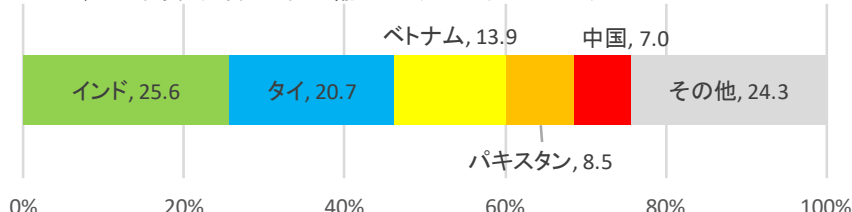
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	494.9	498.7	497.8	0.2	▲ 0.2
消費量	482.2	490.0	496.1	0.1	1.2
輸出量	47.1	46.2	46.9	▲ 0.3	1.6
輸入量	46.8	44.5	44.2	▲ 0.3	▲ 0.8
期末在庫量	162.3	170.9	172.7	0.8	1.0
期末在庫率	33.7%	34.9%	34.8%	0.1	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 July 2019)

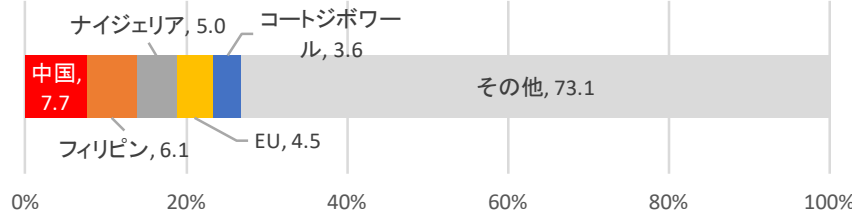
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (497.8 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (46.9 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (44.2 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】4月から断続的に続く降雨により南部の長粒種産地で作付、生育に遅れが生じた。米国農務省（USDA）の「Crop Progress」（2019.7.22）によれば、7月21日時点の出穂率は生産州全体で31%となっており、過去5か年平均に比べ、12ポイント遅れている。なお、中・短粒種の生産州であるカリフォルニア州の生育状況は良好。USDAによれば、生産量は、「作付面積調査」（2019.6.28）に基づき収穫面積が上方修正されたことから、前月予測から0.3百万トン上方修正され、対前年度比6.9%減の6.6百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、減産となるブラジルに比べ競争力のある価格により対前年度比9.9%増の3.2百万トンとなり、中南米で市場シェアを取り戻すと予想されている。輸入量は対前年度比1.1%増の0.9百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】現地情報によれば、インド北西部と南部では、2019/20年度のカリフ米の田植えが終了した地域がある。その他の地域では、ほ場準備期から育苗期に入っている。モンスーン期の降雨の遅れにより作付け進捗が多少遅れているが、7月上旬にまとまった雨がもあったこともあり、生産量への影響は限定的とみられる。農家は、高価格かつ旺盛な輸出需要によりバスマティ米（高級香米）の作付けを増やしており、特にインド北西部の州で顕著な傾向となっている。

USDAによれば、単収は前年度比で増加するものの、収穫面積が減少することから、生産量は対前年度比0.5%減の115.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、12.0百万トンの見込みで、依然として9年連続で世界最大の輸出国となる見込み。

インド消費者問題・食料・公的分配省によれば、前年度が豊作となったことから6月時点の政府備蓄量は27.6百万トンと前年同月（24.3百万トン）を大きく上回っている。

米－米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.6	0.3	▲ 6.9
消費量	4.3	4.4	4.4	0.2	▲ 0.7
輸出量	2.8	2.9	3.2	0.0	9.9
輸入量	0.9	0.9	0.9	-	1.1
期末在庫量	0.9	1.6	1.6	▲ 0.0	▲ 2.4
期末在庫率	13.2%	22.4%	21.1%	▲ 1.1	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.10	0.06	▲ 6.8
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.63	▲ 0.02	0.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)

米－インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、
南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	115.6	115.0 (117.5)	-	▲ 0.5
消費量	98.7	100.7	102.0 (102.3)	-	1.3
輸出量	12.0	12.0	12.0 (12.2)	-	-
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	25.5	26.5 (28.4)	0.5	3.9
期末在庫率	20.4%	22.6%	23.2% (24.8%)	0.4	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.90	44.50	44.00 (44.25)	-	▲ 1.1
単収(もみt/ha)	3.94	3.90	3.92 (2.66)	-	0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)

IGC 「Grain Market Report (27 June 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】現地情報によれば、主産地のメコンデルタでは、6月末現在、夏秋作は分げつ期から登熟期に入っており、順調に生育している。一部地域では収穫が始まっている。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、単収の増加により対前年度比1%増の28.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019年7月のインディカ精米（碎米5%）の輸出価格は、375ドル/トンで、前年同月（399ドル/トン）と比べ低水準。2019年1～6月の輸出量は、3.4百万トンと対前年同期比（3.5百万トン）で3.6%減となっている。前年度と比較して、フィリピン、コートジボワール、香港向けの輸出が大きく伸びている（3.6倍）ものの、かつての主要輸出先であった中国、インドネシア向けが合わせて8割減となっている。

<タイ>

【生育・生産動向】USDAによれば、2018/19年度の実産量は乾季作米の水不足により0.2百万トン下方修正され、20.6百万トンの見込み。現地情報によれば、例年5月中旬から雨季が始まるが、中部及び北部の主産地では6月下旬になっても引き続き雨が不足し、作付けを開始できない農家もいる。この降雨不足により、現地では2018/19年度の雨季米の生産減少が予想されている。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の実産量は、対前年度比1.7%増の20.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019年1～5月のタイ産米の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、パーツ高等により、前年同期比14.8%減の3.8百万トンとなった。主な輸出先は、ベナン（69.6万トン）、フィリピン（26.8万トン）である。

7月24日時点のタイ産米（100%2等）の輸出価格は431ドル/トンで、ベトナム産より2割程度割高であることから、輸入需要が低迷している。さらに、価格重視のサブサハラアフリカでは中国に輸出の機会を奪われている。

米-ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.7	28.0 (29.3)	-	1.0
消費量	21.5	21.5	22.0 (22.9)	-	2.3
輸出量	6.6	6.5	6.5 (6.6)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.1 (3.7)	-	▲ 8.7
期末在庫率	3.7%	4.1%	3.7% (12.7%)	-	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.65	7.55	7.50 (7.65)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	5.79	5.87	5.97 (3.82)	-	1.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
IGC 「Grain Market Report (27 June 2019)」 (単収は精米t/ha)

米-タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.6	20.9 (21.0)	-	1.7
消費量	11.0	11.0	11.0 (10.9)	0.1	-
輸出量	11.1	9.2	9.7 (10.0)	▲ 0.3	5.4
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	3.6	4.1 (3.7)	0.4	12.5
期末在庫率	13.6%	17.9%	19.6% (17.6%)	2.3	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.76	10.90	11.01 (11.00)	-	1.0
単収(もみt/ha)	2.90	2.86	2.88 (1.90)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
IGC 「Grain Market Report (27 June 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】7月上旬現在、2019/20年度の二期作早稲は、南部の産地で出穂期から登熟期に入っている。二期作晩稲は、播種期から育苗期に入っている。一期作稲は分けつ期に入っている。6月から7月上旬にかけての適度な降雨により中国の大部分では概ね順調に生育している。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積及び単収ともに減少することから対前年度比1.7%減の146.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、対前年度17.9%増の3.3百万トンの見込み。これは、政府備蓄在庫の古米が含まれることから特に中粒種の輸出価格が米国や豪州産に比べ約半額となっていること、エジプト及び豪州が生産減少により輸出国から輸入国に転じたことから、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。また、長粒種の輸出は、従来の輸出国であるタイ、ベトナムに代わり、サブサハラアフリカ向けで好調である。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（6月分）によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,620元/トン、3,960元/トン、4,240元/トン。インディカ米の価格は、国家備蓄在庫の競売が順調に進展し、競売量も徐々に増加しているため、下落している。一方、ジャポニカ米の価格は、東北地区で競売したジャポニカ米の出庫が比較的遅く、市場の流通量が一時的に少なくなったため、前月に比べ上昇した。

米－中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	148.9	148.5	146.0 (147.4)	-	▲ 1.7	
消費量	142.5	143.6	144.6 (145.6)	▲ 0.1	0.7	
輸出量	1.4	2.8	3.3 (3.1)	-	17.9	
輸入量	5.5	3.4	3.4 (3.6)	▲ 0.1	-	
期末在庫量	109.0	114.5	116.0 (99.9)	-	1.3	
期末在庫率	75.8%	78.2%	78.4% (67.2%)	0.1	0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	30.00 (30.05)	-	▲ 0.6	
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	6.95 (4.91)	-	▲ 1.1	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
IGC 「Grain Market Report (27 June 2019)」 (単収は精米t/ha)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

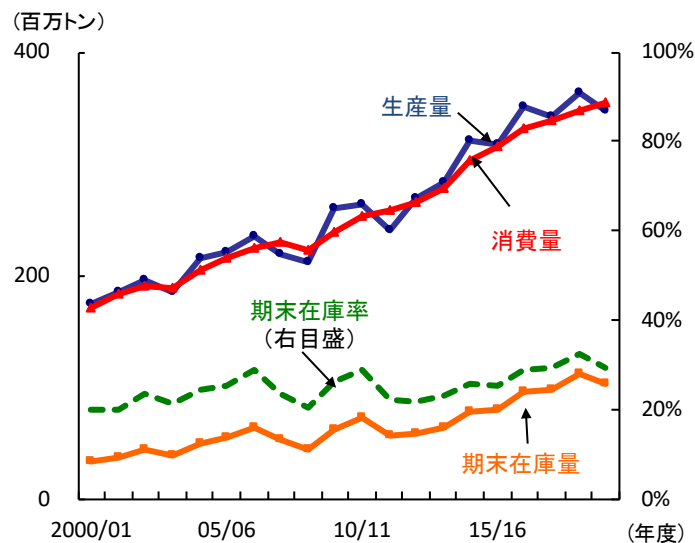
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナで下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ブラジル、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2019.7.11)をもとに農林水産省で作成。

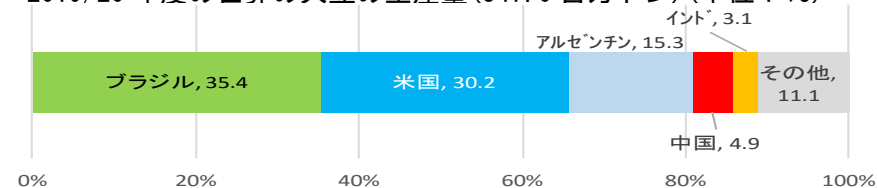
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

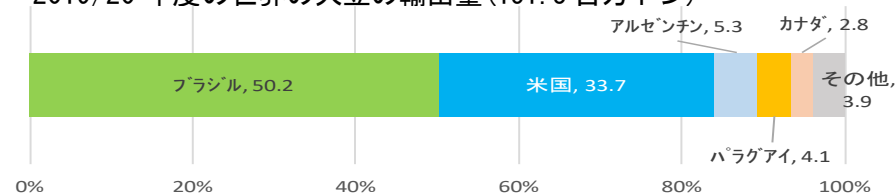
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	341.5	362.9	347.0	▲ 8.4	▲ 4.4
消費量	338.4	347.7	355.1	▲ 0.3	2.1
うち搾油用	295.1	301.0	307.9	▲ 0.3	2.3
輸出量	153.1	150.2	151.3	0.2	0.7
輸入量	152.9	148.8	150.8	-	1.3
期末在庫量	99.1	113.0	104.5	▲ 8.1	▲ 7.5
期末在庫率	29.3%	32.5%	29.4%	▲ 2.3	▲ 3.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 July 2019)

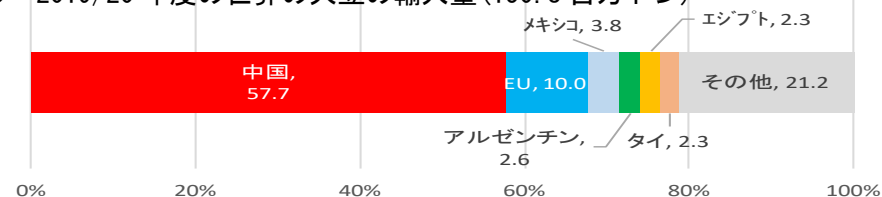
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量 (347.0 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量 (151.3 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量 (150.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2019/20年度の生産量は、「作付面積調査」（2019.6.28）の結果を受けて、前月予測から8.3百万トン下方修正され104.6百万トンの見込み。同調査によれば、大豆の収穫面積は、前年より10%減少し、過去6年間で最も低い。今年3月末公表の「作付意向調査」と比較して、サウスダコタ州を始めほとんどの州で収穫面積は下方修正された。

「Crop Progress」(2019.7.22)によれば、中西部での降雨により作付けが遅れたため、7月21日時点の主要18州における開花率は、40%と前年度の76%及び過去5年平均の66%を下回っている。作柄評価は、良からやや良が54%と、前年度の70%より低下している。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、生産量の減少と、ブラジル、アルゼンチン等との輸出競争により、前月予測から2.0百万トン下方修正され51.0百万トンの見込み。期末在庫量は、生産量の減少から前月予測から6.8百万トン下方修正され、21.6百万トンの見込み。

累計輸出検証高（2019年1月1日～7月4日）は、20.8百万トンであり、内訳は中国（8.4百万トン）、メキシコ（2.2百万トン）の順である。

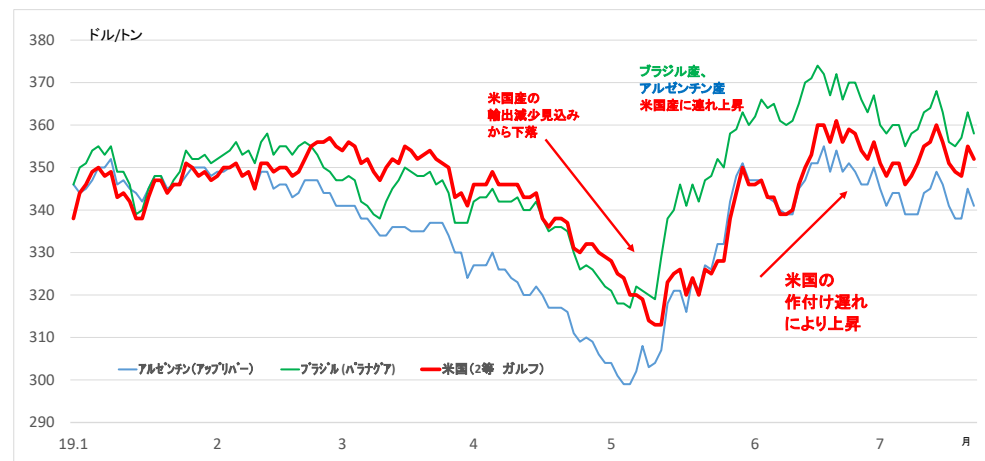
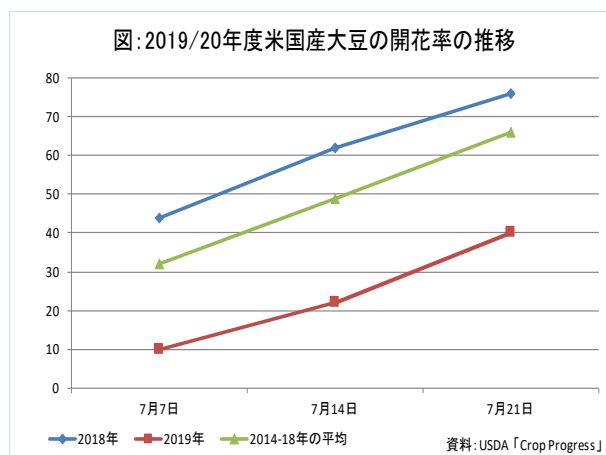
大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	123.7	104.6	▲ 8.3	▲ 15.4
消費量	58.9	61.2	61.1	-	▲ 0.2
うち搾油用	55.9	56.7	57.6	-	1.4
輸出量	58.1	46.3	51.0	▲ 2.0	10.3
輸入量	0.6	0.5	0.5	-	17.4
期末在庫量	11.9	28.6	21.6	▲ 6.8	▲ 24.3
期末在庫率	10.2%	26.6%	19.3%	▲ 5.6	▲ 7.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.66	32.08	▲ 1.84	▲ 10.0
単収(t/ha)	3.31	3.47	3.26	▲ 0.07	▲ 6.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。本年9月以降に作付けが開始される。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、46.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から1.0百万トン上方修正され76.0百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。輸出は、中国向けが多くなっており、中国におけるブラジル産の輸入シェアは米国産を大きく上回っている。

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	122.0	117.0	123.0	(121.0)	-	5.1
消費量	46.5	45.9	46.5	(...)	-	1.4
うち搾油用	44.5	43.2	43.8	(...)	-	1.3
輸 出 量	76.2	77.3	76.0	(...)	1.0	▲ 1.6
輸 入 量	0.2	0.2	0.2	(...)	-	33.3
期末在庫量	32.7	26.8	27.5	(...)	▲ 0.3	2.6
期末在庫率	26.7%	21.7%	22.4%	(...)	▲ 0.4	0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	35.15	36.10	36.90	(36.80)	-	2.2
単収(t/ha)	3.47	3.24	3.33	(3.29)	-	2.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(14 June 2019)

ブラジルのクロープカレンダー（2019/20年度）（中部から南部）

2018/19年度の大豆は、2019年2月には収穫が終了し、冬とうもろこしを栽培。

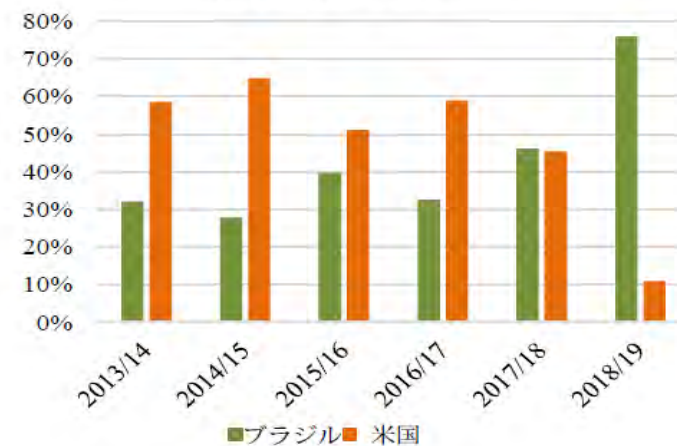
収穫後、2019/20年度の大豆の作付けを2019年9月以降開始見込み。

ブラジルのクロープカレンダー（中部から南部）

2018/19年度	2018年												2019年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												作付 4.9(百万ha)								
冬とうもろこし	マトグロソ州、パラナ州等												収穫 26.1(百万t)								
大豆	作付面積夏冬計 17.3												作付 12.4								
	早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種												収穫 72.4								
	作付 35.9												収穫 115.0								

資料：CONAB 穀物レポート(2019.7.11)

中国輸入量におけるブラジル産と米国産の割合の推移（10月から翌年5月）



資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2019.7)

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から0.1百万トン下方修正され6.2百万トンの見込み。

また、カナダ農務農産食品省（AAFC）によれば、主産地のカナダ東部については、6月以降の降雨の影響で土壌水分過多である。降雨過多の生産量への影響は、8月のレポートで反映される見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から0.05百万トン下方修正され4.2百万トンの見込み。

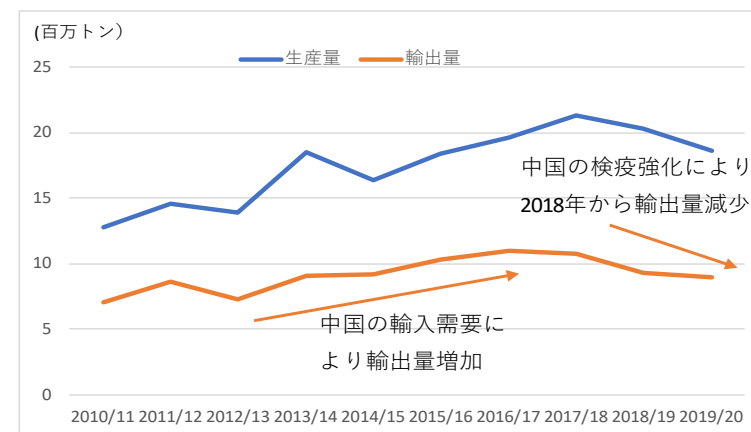
大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.2 (6.7)	▲ 0.1	▲ 15.1
消費量	2.9	2.7	2.6 (2.5)	-	▲ 2.6
うち搾油用	1.9	2.0	1.9 (・・・)	-	▲ 5.0
輸出量	4.9	5.4	4.2 (4.7)	▲ 0.05	▲ 22.2
輸入量	0.5	0.8	0.8 (0.4)	-	-
期末在庫量	0.6	0.6	0.8 (0.6)	▲ 0.05	27.5
期末在庫率	8.1%	7.9%	11.9% (8.0%)	▲ 0.6	4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.55	2.20 (2.30)	-	▲ 13.7
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.82 (2.91)	▲ 0.04	▲ 1.4

資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 July 2019)

カナダのなたね生産量と輸出量の推移



資料：カナダ農務農産食品省（AAFC）のデータを農林水産省で加工

(参考) (カナダのなたね)

AAFCによれば、2019/20年度のなたね生産量は、前年度比9%減の18.6百万トンの見込み。これは、中国向け輸出が不確実であることから、なたね価格が低くなり、農家にとって魅力に欠け、他の作物に転換したことにより、収穫面積が、前年度比8%減の9.1百万ヘクタールであるため。

過去10年を見ると、中国のなたね輸入需要により、輸出量が増加してきた(右図)。しかしながら、2018年に中国が検疫を強化したことから、2018/19年度は中国向け輸出が減少し、2019/20年度も前年度比3%減の9.0百万トンの見込み。

また、2019/20年度の期末在庫率は、輸出の減少により、1988/89年度(30%)以来、最も高い21%の見込み。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。なお、2018/19年度の収穫は2019年6月までに終了している。

【需給動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、52.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月予測から1.0百万トン上方修正され8.0百万トンの見込み。

アルゼンチンは、国内搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多い。USDA「Oil Crops Outlook」(2019.7.15)によれば、アルゼンチン産大豆粕輸入需要が減少しているため、その裏返しとして、大豆の輸出可能量が増加する見込み。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	56.0	53.0 (52.8)	-	▲ 5.4
消費量	43.6	47.9	52.2 (...)	-	8.9
うち搾油用	36.9	41.0	45.0 (...)	-	9.8
輸 出 量	2.1	8.8	8.0 (...)	1.0	▲ 8.6
輸 入 量	4.7	6.4	3.9 (...)	-	▲ 38.6
期末在庫量	23.8	29.5	26.2 (...)	▲ 1.0	▲ 11.0
期末在庫率	51.9%	52.0%	43.6% (...)	▲ 0.02	▲ 8.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	17.10	17.50 (17.30)	-	2.3
単収(t/ha)	2.32	3.27	3.03 (3.05)	-	▲ 7.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(14 June 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、17.0百万トンの見込み。

【需給動向】USDAによると、2019/20年度の消費量は、2018年に発生したアフリカ豚コレラの影響もあり、中国国内需要が低調なまま、103.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸入量は、87.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、6月の輸入量は、6.5百万トンと前年度同月と比べ、2.2百万トン減少した。内訳は、ブラジル産5.5百万トン、米国産0.6百万トンである。

大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	15.9	17.0 (16.7)	-	6.9
消費量	106.3	103.1	103.7 (...)	-	0.6
うち搾油用	90.0	86.0	86.0 (...)	-	-
輸 出 量	0.13	0.13	0.13 (...)	-	-
輸 入 量	94.1	85.0	87.0 (...)	-	2.4
期末在庫量	23.5	21.2	21.4 (...)	-	0.8
期末在庫率	22.1%	20.5%	20.6% (...)	-	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.25	8.40	9.10 (8.25)	-	8.3
単収(t/ha)	1.84	1.89	1.87 (2.02)	-	▲ 1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 July 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(14 June 2019)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年7月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p>連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)</p>
